

①



4logue：入口、出口・・・ねじれ？

ノコ：出口の写真、探しましたよ。入口と違って、出口はサマにならないのかな。ここでも、外の風景のフレームになっていますね。あるいはニャンコ先生を撮ったのかな。①

二坪：こんなのがありましたか。これは、「のこぎり二」の出口でもあり、外の世界への入口でもある。トビラを境に世界が違う？ 世界を分かつトビラ？

ノコ：確かに、「のこぎり二」や「スパーブ」は、これまでワタシたちの生活を律してきた価値観とは異なった世界のような・・・、「二坪の眼」しかり。

②



二坪：お褒めいただいて・・・、そういうことではないか。私は、北からの柔らかな光が射し込むノコギリヤネの窓に何か意味がありそうな気がしています。ということで②を用意しました。ちなみに、「これはドーナツではない」。

ノコ：ドーナツは暫し中断。一枚の絵を思い出しました。精神科医をしている義弟のメンタルクリニックの待合室の壁に、香月泰男のリトグラフ『青の太陽』③が架かっています。戦後、シベリアに抑留されていた画家で、「匍匐訓練をさせられる演習の折、地球に穴をうがったという感じの蟻の巣穴を見ていた。自分の穴に出入りする蟻を羨み、蟻になって穴の底から青空だけを見ていたい。そんな思いで描いたものである。深い穴から見ると、真昼の青空にも星が見えるそうだ」と言っています。この寓話はいろいろな解釈ができそうです。例えば、ノコギリヤネは人を誘い込み、外では見えなかったものが、中からあの窓を通して見ることができる。そこは、深～い穴ならぬ、位相の異なる空間？ 何かを見ちゃった人は魅入られてしまう、ノコギリヤネに。巣穴に入る蟻を見ている視線が、蟻を通して、中から空の星を見ている。メビススの帯、クラインの壺じゃないけれど、そこには「ねじれ」が発生する。無意識と意識が交差するというか・・・

③



二坪：ねじれ・・・、それは永遠に交わらない線。ツイストドーナツというのがありますけどね。あれはドーナツ？ 穴はあるのか？ 謎はさらに深まる。

ノコ：そっちかい。ねじれちゃったな。 (続くかな)